

# 10月13日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①米国のウクライナ支援は無限ではない＝米政府高官(2023年10月12日)

ホワイトハウスのジョン・カービー戦略コミュニケーション調整官は会見で、米国はウクライナに無期限で軍事支援を行うつもりはないと述べた。

米国は11日、ウクライナに対して2億ドルの追加支援を発表した。その後の会見でカービー調整官は会見で、「今後もできる限りの支援を続けるつもりだが、支援は際限がないわけではない」と述べた。

カービー調整官によると、短期的に米国はウクライナとイスラエルの両方を支援する用意があるという。しかし、「短期的に」が何を意味するかについては具体的に言及することを避けた。今後の支援はイスラエル国防軍が弾薬をどれだけ集中的に消費するか、そしてイスラエル軍産複合体が自軍にどれだけの砲弾を供給できるかに大きく左右されると述べた。

### イスラエル・パレスチナ紛争の激化

10月7日午前、パレスチナ・ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスは、イスラエルに対する未曾有の大規模ミサイル攻撃を開始した。イスラエル側は3000発を超えるミサイルが撃ち込まれたとしている。ハマスはイスラエル南部への地上部隊による越境攻撃も行っている。

イスラエルは報復としてガザ地区を空爆。一部ではパレスチナ側とイスラエル軍による地上戦が続いているとみられる。一連の衝突でこれまでに、イスラエル、パレスチナ双方合わせて少なくとも2150人以上が死亡したとされている。



<https://sputniknews.jp/20231012/17388582.html>

## ②国際社会の注目を繋ぎ留めたい宇大統領、イスラエル訪問に向けて動き出す(2023年10月12日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はイスラエル・パレスチナ紛争激化のさなか、「連帯のしるしとして」イスラエル訪問を希望している。米メディア、アクシオがウクライナ政府とイスラエル政府の情報筋を引用して報じた。

報道によると、ウクライナ大統領府は訪問の調整を求める公式要請をイスラエル首相官邸に送ったという。

この交渉は予備段階で、訪問の日程はまだ決まっていない。現時点でウクライナ大統領府とイスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相の官邸はこの点についてコメントを控えている。

先にゼレンスキー大統領は仏メディア「フランス 2」のインタビューに応じた中で、イスラエル情勢の激化は国際社会の注目をウクライナ紛争から「そらす」危険があると述べ、イスラエル情勢は「結果を招くだろう」と懸念を表明していた。



<https://sputniknews.jp/20231012/17389018.html>

### ③ 「気を付けるがよい」、イスラエル情勢を巡り米大統領がイランに警告(2023 年 10 月 12 日)

ジョー・バイデン米大統領は 11 日、パレスチナ・イスラエル紛争の激化を受け、イランに対し慎重な行動を求めていると述べた。

バイデン氏は米国のユダヤ系公共団体が主催した会合に出席し、「イランに対しては、気を付けろとはっきり伝えた」と述べ、中東情勢の緊迫化についてコメントした。

一方、イスラエルに対しては、イスラム主義組織「ハマス」と戦う際には「戦争のルール」に従うよう求めた。バイデン氏は先の会合の中で、「イスラエルは怒りと不満を抱えつつも…戦争のルールに従って行動することが本当に重要だ」と指摘した。

先にホワイトハウス高官はブリーフィングの中で、「イラン政府が(これらの攻撃の)計画に直接関与していたのか、支援していたのかを判断するのは時期尚早だ。我々は先走りはしないが、この問題を非常に慎重に研究する」と述べた。この点について先にイスラエルのイツハク・ヘルツォグ大統領は SNS への投稿で、敵対するイランの関与を疑っていた。

#### イスラエル・パレスチナ紛争の激化

10 月 7 日午前、パレスチナ・ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスは、イスラエルに対する未曾有の大規模ミサイル攻撃を開始した。イスラエル側は 3000 発を超えるミサイルが撃ち込まれたとしている。ハマスはイスラエル南部への地上部隊による越境攻撃も行っている。

イスラエルは報復としてガザ地区を空爆。一部ではパレスチナ側とイスラエル軍による地上戦が続いているとみられる。一連の衝突でこれまでに、イスラエル、パレスチナ双方合わせて少なくとも 2150 人以上が死亡したとされている。

<https://sputniknews.jp/20231012/17388831.html>



#### ④イランが 8 月以降ハマスのイスラエル攻撃準備を支援か＝米紙(2023 年 10 月 9 日)

米紙ウォール・ストリート・ジャーナルは、パレスチナのハマスとイランが支援するシーア派組織「ヒズボラ」の高官の話引用し、イスラム革命防衛隊(IRGC、イランのエリート部隊)の将校らが 8 月からハマスのイスラエル攻撃計画に協力しており、10 月 2 日にレバノン・ベイルートで開かれた会合で承認されたと報じている。

これに先立ち、ホワイトハウスは、パレスチナによるイスラエル攻撃の支援にイランが関与しているかについて、結論を出すのは時期尚早だと米国は考えていると表明。一方、アントニー・ブリンケン国務長官は、イスラエル南部への攻撃にイランが関与しているという証拠は米国にはないが、イランがガザ地区を支配するハマスと長年にわたる関係があることは広く知られていると述べていた。ブリンケン氏によれば、イランの支援がなければハマスは今日のようなものにはならず、イランもこの件で米国の制裁の対象となっている。

同紙は「イスラム革命防衛隊の将校らは、8 月からハマスとともに空、陸、海の侵攻作戦について取り組んできた」と記している。

同紙の複数の中東情報筋によれば、イスラム革命防衛隊のより世界規模での計画は、あらゆる方面からイスラエルを脅かすことだという。

情報筋らによれば、ハマスの攻撃の詳細はベイルートでの数回の会合で明らかにされ、10 月 2 日の会合でイランはエスカレーションを開始する「ゴーサイン」を出したという。

同紙はまた、匿名の欧州政府高官およびシリア政府顧問からも同様の情報を得たと報じている。

##### イスラエル・パレスチナ紛争の激化

10 月 7 日午前、パレスチナ・ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスは、イスラエルに対する未曾有の大規模ミサイル攻撃を開始した。イスラエル側は 3000 発を超えるミサイルが撃ち込まれたとしている。その後、ハマスはイスラエル南部に越境攻撃している。

パレスチナのイスラム組織「ハマス」は 10 月 7 日、イスラエルに対して「アルアクサの洪水作戦」開始を宣言。これに対し、イスラエル国防軍は「鉄の剣」作戦を発動してハマスの攻撃に対抗。イスラエルの

ベンヤミン・ネタニヤフ首相は国民に向けた演説の中で、国家は戦争状態にあると表明した。人口密集地域からハマス戦闘員を排除するよう命じ、予備役の広範な動員を命じた。

イスラエル軍はガザ地区への空爆を開始。ガザ地区では空爆により 413 人が死亡し、約 2300 人が負傷したと主張されている。

ロシアのミハイル・ボグダノフ外務次官はスプートニク通信に対し、ロシアはイスラエルおよびパレスチナに対し、停戦し交渉の席に戻るよう求めていると語った。



<https://sputniknews.jp/20231009/8-17355142.html>

## ⑥米 국무長官、ハマスの作戦への非難を呼びかけるもアラブ諸国外相らを説得できず (2023年10月9日)

アントニー・ブリンケン米 국무長官は、イスラエルと和平協定を結んでいるアラブ諸国の外相と電話で会談し、パレスチナのハマスによるイスラエルへの作戦を非難するよう求めた。しかし、外相らはそれを拒否したという。米ニュースサイト「アクシオス(Axios)」が米政府関係者の話を引用して報じた。

「ブリンケン氏はイスラエルと和平協定を結んでいるアラブ諸国の外相数人と話し、ハマスの侵攻を非難するよう求めた」

しかしながら、アラブ諸国の外相らはハマスの侵攻を非難するよう求めたブリンケン氏の要請に応じなかったと同サイトは強調している。

アクシオスの報道によると、ブリンケン氏はサウジアラビアのファイサル・ビン・ファルハン外相とも電話会談を行った。その後、ファイサル・ビン・ファルハン外相は声明の中で、サウジアラビアは民間人を標的にした攻撃は拒否するが、ハマスの攻撃は非難しないと述べた。



<https://sputniknews.jp/20231009/17354926.html>

## ⑥【図説】 紛争激化 どの国がイスラエル、あるいはパレスチナへの支持を表明したか (2023年10月9日)

10月7日、ハマスはガザ地区からイスラエル南部と中部に向けてミサイル攻撃を行い、イスラエルとの境界線を越境。イスラエルに対する「アル・アクサの洪水作戦」を発表した。イスラエル国防軍も大規模な攻撃を受け、作戦の開始を発表。その後、イスラエルは50年ぶりに「戦争状態」への移行を宣言した。スプートニクはこの紛争でどの国がイスラエル、パレスチナのどちらへの支持を表明したかについて、インフォグラフィックを用意した。



<https://sputniknews.jp/20231009/--17351154.html>

## ⑦ハマスは「地球上から一掃される」=イスラエル国防相(2023年10月12日)

イスラエルのアフ・ガラント国防相は11日夜、イスラエル・ガザ地区に展開するイスラム主義組織「ハマス」について、同組織は「地球上から一掃される」と述べた。

ガラント国防相はベンヤミン・ネタニヤフ首相および野党のベニー・ガンツ党首とともに、イスラエル

での緊急政府樹立発表以来、初めて共同声明を発表した。合意に達した結果に基づき、3 者全員が軍事管理内閣に入閣し、今後の軍事作戦について決定を下す。

ガラント国防相は現状についてコメントした中で、「ユダヤの民は 1945 年以来、こうした事態を目にできなかった」と述べた。

また、国防相はテレビ演説で「ハマスは地球上から一掃されるだろう」と警告し、「イスラエルの子供たちが殺されるような状況はあってはならない」と強調した。



<https://sputniknews.jp/20231012/17389176.html>

## ⑧【視点】イスラエルはガザ地区で軍事作戦の目標を達成するまでは交渉に復帰しない ＝イスラエル外務省報道官(2023 年 10 月 12 日)

イスラエルは、ガザ地区における軍事作戦の戦略的目標をすべて達成するまで同作戦を継続する。交渉復帰の可能性について話すことができるのは、その後だ。イスラエル外務省のリオル・ベン・ドール報道官がスプートニクに語った。

**「テロリストと協力するつもりはない」**

ガザ地区を実効支配するハマスのメンバーがイスラエル人を捕虜として拘束しているが、ベン・ドール氏によると、ガザ地区での軍事作戦は継続される。

「イスラエルは、同国がテロ組織『ハマス』と『イスラム聖戦』に対する戦略的目標を達成するまでは軍事行動を継続することにこだわっている」

リオル・ベン・ドール氏(イスラエル外務省)

ベン・ドール氏は、これらの組織の過激主義者たちは子どもや女性を含む罪のない人々を殺害し、イスラム教に反する方法も使用しているが、イスラエル指導部は自国の利益だけでなく、地域のすべての住民の利益のためにも行動していると指摘した。

同氏によると、テロリストらはパレスチナ人の共通の大義にまるで奉仕せず、イスラエル政府との和解に貢献していないため、そのような犯罪を行うことで過ちを犯している。

「彼ら(テロリスト)は我われの国と隣り合うのではなく、私たちの国の廃墟の上にパレスチナ国家を樹立することを望んでいるため、我われは彼らと協力するつもりはない」

リオル・ベン・ドール氏(イスラエル外務省)

## 地上作戦の目標について

ベン・ドール氏はまた、現時点では地上作戦がどのような形で展開されるかを述べるのは難しいものの、ガザ地区からテロをなくすというイスラエルの決意を表明した。作戦のその主な目標は、イスラエル領内におけるテロ行為の考えられるすべてのシナリオを阻止し、あらゆる脅威を排除し、長い年月にわたって国内の安全を確保することだという。

「我われは、あらゆる前線で敵と対峙する用意がある。交渉復帰の可能性は、ガザ地区におけるこの軍事作戦の目標が達成された後に初めて生じる」

リオル・ベン・ドール氏(イスラエル外務省)

イスラエル国防軍は、ガザ地区を攻撃する際、特にテロリストが潜伏している建物を攻撃するときには、これらの場所の近くにイスラエル人捕虜がいる可能性を考慮するという。一方、イスラエル国防軍は、すべての目標を達成するために戦争を継続する決意に満ちているとされる。

『「ハマス」と『イスラム聖戦』の戦闘員らは病院、モスク、学校に潜んでいる。彼らは、イスラエルはこれらの場所には手を出さないと考えているからだ。しかし、これで我われの動きを止めることはできない。なぜなら今や、これらの場所はイスラエル政府の正当な標的になっているからだ」

リオル・ベン・ドール氏(イスラエル外務省)



## ㊦「許しがたいフェイク」イスラエル人ジャーナリストは、斬首された子ども 40 人に関する情報を検証しなかった(2023 年 10 月 12 日)

イスラエル人女性ジャーナリストのニコル・ゼデク氏は、イスラエル南部キブツ(農業共同体)クファール・アザの犠牲者について自身が報じた情報について弁明した。同氏は、ニュースチャンネル i24NEWS のレポートで、ハマスの攻撃を受けたクファール・アザで子ども 40 人を含むイスラエル人 200 人の遺体が発見されたと伝えていた。またレポートの中では、一部の子どもたちは首を「切り落とされていた」とも述べられ、その後、斬首された子どもたちのニュースが SNS 上で拡散された。

一方、世間一般の人々がその出来事の証拠や詳細を求めると、ゼデク氏は自身の発言を撤回した。

この情報は、兵士がゼデク氏に語ったものであり、ゼデク氏自身は何も目撃していなかったことがわかった。ゼデク氏は SNS 大手「X(旧ツイッター)」に次のように投稿した。

「兵士たちが私に、自分たちは 40 人の子どもが殺されたと考えていると語った。軍が今も家をまわっており、新たな犠牲者が見つかったため、正確な死者数は未だに不明」

ニコル・ゼデク氏(ジャーナリスト)

ゼデク氏はこの情報を検証せずに自身のレポートの中で伝えたため、フェイクが生まれてしまった。

一方、イスラエル軍はアナドル通信社に対し、ハマスが「赤ん坊の首を切った」という確証はないと語った。

しかし、フェイクニュースが雪だるま式に拡大するのを止めるのは難しく、ゼデク氏やイスラエル軍の弁明など誰も気にしていない。衝撃的だがフェイクであるこのニュースは、すでに大きなニュースとして取り上げられている。

一方、ゼデク氏は嘘をついたが、イスラエルの入植地クファル・アザでは人々が実際に虐殺された。それらの遺体に関する正確な情報は、近いうちにも軍によって明らかにされる見込み。

最新情報によると、パレスチナとの紛争激化によるイスラエル側の死者数は 1200 人を超えた。パレスチナ保健省の最新データによると、イスラエル軍によるガザ地区への攻撃の死者数は 1000 人以上に上っている。



<https://sputniknews.jp/20231011/17378678.html>

## ⑩欧州委員会、X がイスラエル紛争に関する「偽情報」を広めていると指摘 マスク氏が反論(2023 年 10 月 11 日)

欧州委員会のティエリー・ブルトン委員(域内市場担当)は SNS「X(旧ツイッター)」内で、イスラエル・パレスチナ紛争に関する「違法なコンテンツと偽情報」が拡散されているとして、米実業家のイーロン・マスク氏に X を通じて書簡を宛てた。マスク氏は X の透明性を強調しながらこれに返答した。

ブルトン氏は 10 日、X でイスラエル・パレスチナ紛争に関する「違法なコンテンツと偽情報」が拡散している疑いがあるとマスク氏に警告した。ブルトン氏の書簡では、マスク氏に対して 24 時間以内に回答し、「関連する法執行当局」に連絡するよう要求された。

マスク氏は、ブルトン氏の投稿に返答する形で、ブルトン氏が言及している X での違反行為をリストアップし、「一般の人々が閲覧できるようにしてほしい」と求めた。

「私たちのポリシーは、すべてがオープンソースで透明性があるということであり、EU もこのアプローチを支持していることを私は知っている。あなたが言及している X の違反行為をリストアップし、一般の人々が閲覧できるようにしてください」



イーロン・マスク(米国の実業家で億万長者)

マスク氏はフランス語で「ありがとうございます」と付け加えた。

この返答を受け、ブルトン氏は「偽造コンテンツや暴力の賛美について、ユーザーや当局が報告していることをあなたはよく知っているだろう。(この問題について、当局と)話していることを示すかどうかはあなた次第だ」と書き込んだ。

<https://sputniknews.jp/20231011/x-17377811.html>

## ⑪ プーチン大統領、イスラエル・パレスチナでの紛争激化についてトルコ大統領と電話会談(2023年10月11日)

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は10日、トルコのタイイップ・エルドアン大統領と電話会談を実施。その中で両首脳は、イスラエル・パレスチナ紛争地域の急激に悪化した状況について協議し、暴力行為の激化と犠牲者の数の増加に懸念を表明した。ロシア大統領府の報道部が伝えた。

「プーチン大統領とエルドアン大統領の電話会談が行われた。イスラエル・パレスチナの紛争地帯で急激に悪化している状況について主に焦点が当てられた。暴力行為の激化と民間人の死傷者数の壊滅的な増加に対して深い懸念が表明された」

ロシア大統領府の発表には「双方による即時停戦と交渉プロセスの再開の必要性が強調された」とも述べられている。

さらに、両大統領は、紛争解決に積極的に貢献する構えがあることを表明した。

両大統領はまた、中東危機の長期的・平和的解決は、1967年の境界線に基づき、東エルサレムを首都とするパレスチナの独立国家を樹立するという国連安保理で承認された「二国家」方式に基づいてのみ可能であると強調した。

### 第四次中東戦争から50年

第四次中東戦争から50年の節目に、イスラエルの状況は悪化した。1973年10月6日、エジプトとシリアがイスラエルを攻撃した。1967年の第三次中東戦でイスラエルに占領されたアラブ領土の奪還が目的だった。攻撃は、ユダヤ人にとって最も重要な宗教上の祝日である「ヨム・キプール」(贖罪の日または審判の日)に行われた。対立は10月25日まで続いた。同月22日、国連安全保障理事会はソ連及び米国のイニシアチブで、当事国に停戦を求める決議案を採択。2日後にシリア戦線での戦闘行為は停止したが、イスラエルは攻撃を続けた。そして25日、その他の国々の圧力を受けてようやく戦争は終結した。



<https://sputniknews.jp/20231011/17377613.html>

## ⑫プーチン大統領、イスラエル・パレスチナ紛争解決のために国連安保理の決定履行を呼びかける(2023年10月10日)

ロシアのプーチン大統領は10日、イラクのスダニ首相と会談し、イスラエル・パレスチナ紛争を解決するためには、パレスチナの独立主権国家樹立に関する国連安全保障理事会の決定を履行する必要があると述べた。

プーチン大統領は会談で、中東情勢の急激な悪化は、米国の政策が失敗したことの顕著な例だと指摘した。

「米国は毎回、パレスチナ人民の根本的な利益を考慮することなく、イスラエル・パレスチナ紛争の両当事者に圧力をかけてきた」

プーチン大統領によると、米国は中東の問題を自国主導で解決しようとしたが、双方が受け入れられる妥協点の模索には関心がなかった。

プーチン大統領はさらに、イスラエルのすべての紛争当事者は、民間人の被害をゼロにするよう努力すべきだと述べた。



<https://sputniknews.jp/20231010/17373288.html>

## ⑬トルコ大統領、イスラエルへの米空母派遣に疑問を抱く(2023年10月11日)

トルコのタイップ・エルドアン大統領は10日、首都・アンカラで行われたオーストリア首相との会見の中で、地中海東部への米国の空母配備に触れ、この決定の目的については疑問が生じるものだと考えを述べた。

「米国は空母をイスラエルに派遣している。米国の空母がイスラエルで何をするのか、私には疑問が生じた。空母の周囲にあるボートや航空機でガザを攻撃し、非常に深刻な虐殺に加わるだろう」

タイップ・エルドアン(トルコ大統領)

一方、米国のジェイク・サリバン大統領補佐官(国家安全保障担当)は10日の会見で「我々が空母を派遣するのはハマスのためではなく、エスカレーションを拡大しようとする第三国や非国家主体に対し、抑止力についての明確なメッセージを送るためだ」と話した。

米国防総省のロイド・オースティン長官は8日、米国は空母「ジェラルド・フォード」打撃群を地中海東部に派遣し、同地域の航空部隊を強化すると発表した。空母のほかに、ミサイル巡洋艦1隻、ミサイル駆逐艦4隻が含まれている。

<https://sputniknews.jp/20231011/17377434.html>



## ⑭イスラエルによるパレスチナの権利侵害が元凶＝トルコ大統領(2023年10月10日)

パレスチナ人の基本的権利を無視するイスラエル政府のアプローチこそ自国民の安全を脅かしている。トルコのエルドアン大統領が閣議後の国民向け演説で表明した。

エルドアン大統領によると、国際社会がパレスチナに対する約束を履行しないことで、事態がエスカレートしているという。トルコは1949年、イスラエルを国家承認し、外交関係を維持してきたものの、時には中断されたこともあったとのこと。1967年の国境内にエルサレムを首都とする独立主権国家「パレスチナ国」が建設されない限り、この地域に平和は存在しないと強調した。そのうえで、「パレスチナ人を抑圧し、彼らの家や土地を没収する」イスラエルのアプローチは平和の模索に失望をもたらさだろうと警告した。

そして今回の衝突からも、パレスチナ人の基本的権利を無視するイスラエルのアプローチが自国民を脅かしていると指摘した。

一方、エルドアン大統領はイスラエルの民間人に対する無作為な行動、及びパレスチナ・ガザ地区への空爆、そのいずれにも反対した。モスクの爆撃や民間人の殺害は容認できないとし、「戦争にも独自の道徳とモラルがある、すべての当事者はそれらを尊重する義務がある」と強調した。

### イスラエル・パレスチナ紛争の激化

10月7日、ハマスはガザ地区からイスラエル南部と中部に向けてミサイル攻撃を行い、一部の地上部隊がイスラエル側に越境攻撃した。イスラエル国防軍は大規模な攻撃を受け、報復作戦の開始を発表。第四次中東戦争以来50年ぶりとなる正式な「戦争状態」への移行を宣言した。



<https://sputniknews.jp/20231010/17369722.html>